

## 第2章 高校

### 【職業教育を主とする専門学科】

#### — 商業科 —

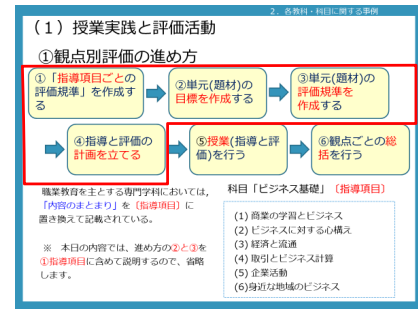
令和3年度高等学校教育課程研修会  
オンデマンド研修動画

### 【本動画の内容】

- 1 学習評価の基本的な考え(確認)
- 2 各教科・科目に関する事例
  - (1)授業実践と評価活動
  - (2)評価の観点に適した評価方法
  - (3)観点別学習状況の評価方法
- 3 協議課題の提示



## 【協議課題】



※本動画スライド6を参照

学習評価の進め方（本スライド6）  
の①～④に沿って  
**「指導計画・評価計画」**  
を作成する。（1指導項目分）



3

### 1. 学習評価の基本的な考え方（確認）

## 学習評価とは？

### 学習評価

学校での教育活動に関し、  
生徒の学習状況を評価するもの

学習評価を通して

- ・ 教師が**指導の改善**を図る
- ・ 生徒が自ら**学習を振り返って**次の学習に向かうことができるようにする



## 学習評価について指摘されている課題

学習評価の現状について、学校や教師の状況によっては、以下のような課題があることが指摘されている。

- ・ 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない
- ・ 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭できていない
- ・ 教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい
- ・ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない
- ・ 相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない

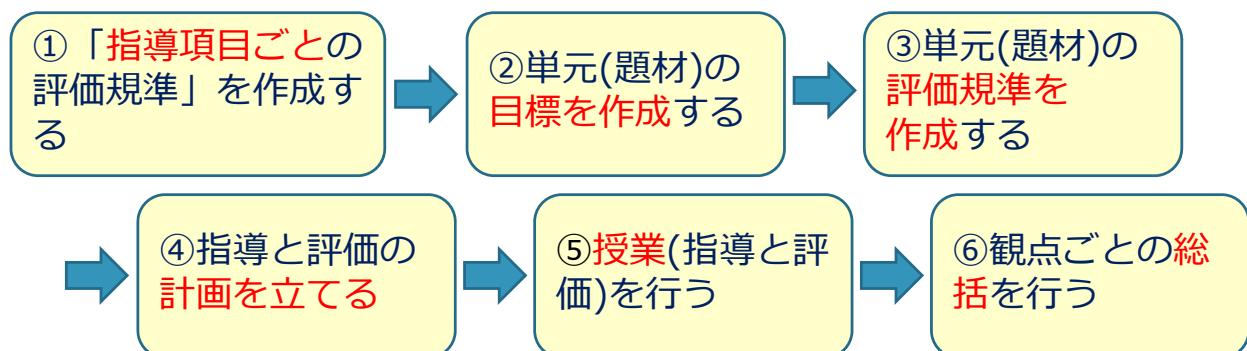
先生によって観点の重みが違うんです。授業態度をととても重視する先生もいるし、テストだけで判断するという先生もいます。そうすると、どう努力していけばよいのか本当に分かりにくいんです。



## 2. 各教科・科目に関する事例 (1) 授業実践と評価活動

### (1) 授業実践と評価活動

#### ①学習評価の進め方



職業教育を主とする専門学科においては、「内容のまとめり」を〔指導項目〕に置き換えて記載されている。

※ 本日の内容では、進め方の②と③を①指導項目に含めて説明しますので、省略します。

科目「ビジネス基礎」〔指導項目〕

- (1) 商業の学習とビジネス
- (2) ビジネスに対する心構え
- (3) 経済と流通
- (4) 取引とビジネス計算
- (5) 企業活動
- (6) 身近な地域のビジネス



## ②単元の構成

単元とは・・・

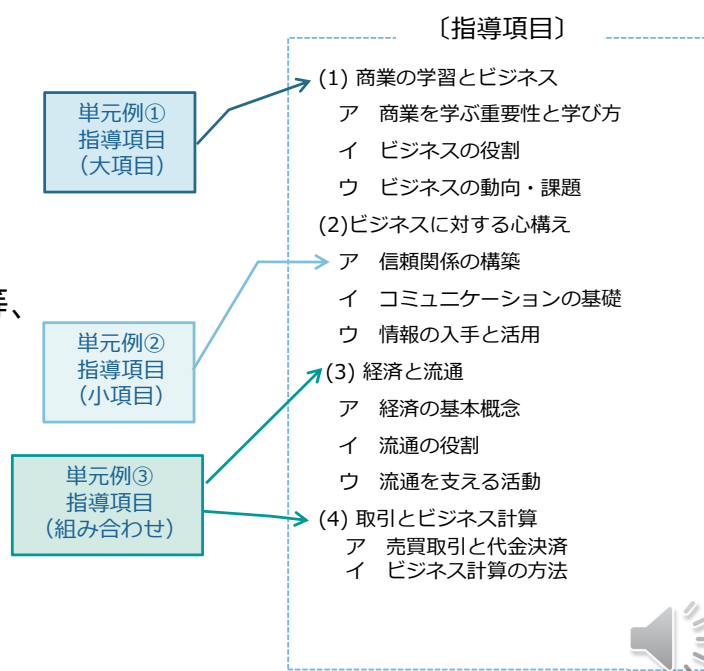
生徒に指導する際の**内容や時間のまとまり**を  
各学校の実態に応じて適切に構成したもの

単元の構成

\* 〔指導項目〕の大項目を  
そのままとする場合

\* 〔指導項目〕の小項目ごと等、  
いくつか分割する場合

\* いくつかの〔指導項目〕を  
組み合わせる場合



### ①「指導項目ごとの評価規準」を作成する

教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」の関係性を踏まえ、  
科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成する。

例：科目「ビジネス基礎」

#### 第1 目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 **【知識及び技術】**

(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 **【思考力、判断力、表現力等】**

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 **【学びに向かう力、人間性等】**



【高等学校学習指導要領解説 第2章 第1節 商業「**ビジネス基礎 第1目標**」】

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」は各学校において作成する

参考例

## 【「ビジネス基礎」の評価の観点及びその趣旨】

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解して <u>いる</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を <u>身に付けている</u> 。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を <u>身に付けている</u> 。



## ①「指導項目ごとの評価規準」を作成する

ア：各科目における〔指導項目〕と「評価の観点」との関係を確認する。

## 例：科目「ビジネス基礎」

## 第2 内容とその取扱い

## 2 内容

## (2) ビジネスに対する心構え

指導項目（大項目）

ここでは、科目の目標を踏まえ、信頼関係の構築、コミュニケーションなどビジネスに対する心構えに関する知識、技術などを基盤として、信頼関係の構築など組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

このねらいを実現するため、次の①から③までの事項を身に付けることができるよう、〔指導項目〕を指導する。

- ① ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けること。 **【知識及び技術】**
- ② ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに、情報を入手して活用し、評価・改善すること。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- ③ ビジネスに対する心構えについて自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むこと。 **【学びに向かう力、人間性等】**

イ：【観点ごとのポイント】を踏まえ、「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成する。

### \* 「知識・技術」のポイント

大項目ごとに示された①を参考に、**知識**については「・・・理解する」、**技術**については「・・・身に付ける」の記述を当てはめ、それを生徒が「・・・**理解している**」「・・・**身に付けている**」かどうかの学習状況として表す。

### \* 「思考・判断・表現」のポイント

大項目ごとに示された②を参考に、「・・・発見（分析）し、解決（評価・改善）する」の記述を当てはめ、それを生徒が「・・・**発見（分析）し、解決（評価・改善）している**」かどうかの学習状況として表す。

### \* 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

大項目ごとに示された③を参考に、「・・・自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む」の記述を当てはめ、それを生徒が「・・・学び、主体的かつ協働的に**取り組んでいる**」かどうかの学習状況として表す。



イ：【観点ごとのポイント】を踏まえ、「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成する。

【高等学校学習指導要領解説 第2章 第1節 ビジネス基礎 2 内容】  
(2) ビジネスに対する心構え

①	②	③
ビジネスに対する心構えについて実務に即して <b>理解する</b> とともに、関連する <b>技術を身に付けること</b> 。	ビジネスの場면을 <b>分析</b> し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに、情報を入手して活用し、 <b>評価・改善すること</b> 。	ビジネスに対する心構えについて自ら学び、ビジネスに <b>主体的かつ協働的に取り組むこと</b> 。

### 参考例

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスに対する心構えについて実務に即して <b>理解している</b> とともに、関連する <b>技術を身に付けている</b> 。	ビジネスの場면을 <b>分析</b> し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに、情報を入手して活用し、 <b>評価・改善している</b> 。	ビジネスに対する心構えについて自ら学び、ビジネスに <b>主体的かつ協働的に取り組もうとしている</b> 。



## 指導項目（単元）の評価規準作成のポイント

### \* 「知識・技術」のポイント

学習の過程を通じた知識及び技術の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技術と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技術を習得したりしているかについて評価する

### \* 「思考・判断・表現」のポイント

知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。

### \* 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

単に継続的な行動や積極的な発言を行う等、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、知識・技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自ら学習の状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。



## ④指導と評価の計画を立てる

### 【例】ビジネスに対する心構え

時	指導事項	学習の目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
1	信頼関係の構築	ビジネスを通して社会に貢献するための職業人として求められるものとは何か考える。	○			■ワークシート ← 形成的評価 (指導に生かす評価) ■ペーパーテスト ← 総括的評価 (記録に残す評価)
2	信頼関係の構築	ビジネスマナーの意義、あいさつと礼の仕方、電話応対などに関する基本的なビジネスマナーについて、理解するとともに技術を身に付ける	○			■行動観察 ← 形成的評価 (指導に生かす評価) ■ワークシート ← 形成的評価 (指導に生かす評価) ■ペーパーテスト ← 総括的評価 (記録に残す評価)
・	コミュニケーションの基礎	ビジネスを円滑に行う上でのコミュニケーションの意義と基礎的なコミュニケーションの方法について理解を深める		○		■行動観察 ← 総括的評価 (記録に残す評価) ■ワークシート ← 総括的評価 (記録に残す評価) ■グループ発表 ← 形成的評価 (指導に生かす評価)
・	情報の入手と活用	情報の収集・分析・解析・伝達・保管について具体的な事例と関連付けて理解を深める			○	■ワークシート ← 総括的評価 (記録に残す評価)
：	：	：				：

### 日頃の授業における評価方法

「形成的評価」・・・教師の指導改善や生徒を伸ばすために行う評価

「総括的評価」・・・記録を残し学習の判定に活用する評価





## ④指導と評価の計画を立てる

## 評価の観点到に適した評価方法

観点	評価方法	具体的な評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期テスト等</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 成果物</li> <li>・ ルーブリック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期テスト等において、事実的な知識を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する工夫改善を図る</li> <li>・ 生徒が文章による説明をしたり、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技術を用いる場面をもうけるなど、多様な方法を適切に取り入れていく</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発問への応答</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ ノートまたは実習記録簿</li> <li>・ 作業計画や作業工程</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論述やレポート作成、発表、グループでの話し合い、作品制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりする</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポートフォリオ</li> <li>・ 課題等に取り組む態度</li> <li>・ 課題解決に向けた発言</li> <li>・ ルーブリック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートやレポート等の記述、授業中の発言、自らの理解を振り返り、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価等の状況が評価を行う際に配慮する材料として考えられる</li> <li>・ 生徒の発達段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら「知識・技術」や「思考・判断・表現」の観点の状況をふまえ、評価を行う</li> </ul>



〔指導項目〕の大項目ごとに  
示されている観点



1回の授業ですべての学びが  
実現されるものではない

指導項目（単元）を通して

- \* 学習を見通し振り返る場面
- \* グループなどで対話する場面
- \* 生徒が考える場面

を設定し、学びの実現を図っていくことが必要





## ⑤ 授業（指導と評価）を行う

## 評価の事例

時	指導事項	学習の目標【ねらい】	評価の観点			評価資料・評価方法
			知	思	態	
2	ビジネスに対する心構え ア 信頼関係の構築	ビジネスマナーの意義、あいさつと礼の仕方、電話応対などに関する基本的なビジネスマナーについて、理解するとともに技術を身に付ける。	○			■行動観察 ← 形成的評価 (指導に生かす評価) ■ワークシート ← ■ペーパーテスト ← 総括的評価 (記録に残す評価)

## 評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠	ビジネスに対する心構えについて自らビジネスに主体的かつ協働的に

生徒に身に付けさせたい学習内容

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法・ 評価
	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:努力を要する(具体的な手立)	
【知識・技術】 ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	基本的なビジネスマナーについて、実務に即してよりよく実践できよう理解するとともに、関連する技術を説明できる程度に確実に身に付けている。	基本的なビジネスマナーについて、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	教科書によって基本的なビジネスマナーについてまとめさせ、関連する技術の習得に努めさせる。	行動観察 ワークシート

## ⑤ 授業（指導と評価）を行う

## 【参考例】評価の事例

この授業で「生徒に身に付けさせたい学習内容」が規準となるため

「B:おおむね満足できる」

## 評価方法について《見取りの視点》

- \* 基本的な学習態度は「B:おおむね満足できる」
- \* 支援が必要な生徒は「C:努力を要する」→具体的な手立てを考える
- \* 学習状況が質的な高まりや深まりをもっている生徒は「A:十分満足できる」

生徒に身に付けさせたい学習内容

評価規準 学習内容	具体的な評価規準			評価方法・ 評価
	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:努力を要する(具体的な手立)	
【知識・技術】 ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	基本的なビジネスマナーについて、実務に即してよりよく実践できよう理解するとともに、関連する技術を説明できる程度に確実に身に付けている。	基本的なビジネスマナーについて、実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	教科書によって基本的なビジネスマナーについてまとめさせ、関連する技術の習得に努めさせる。	行動観察 ワークシート ペーパーテスト

## ⑥観点ごとの総括を行う

例) 評価結果を数値に置き換えて、平均値で求める。

A=3点 B=2点 C=1点

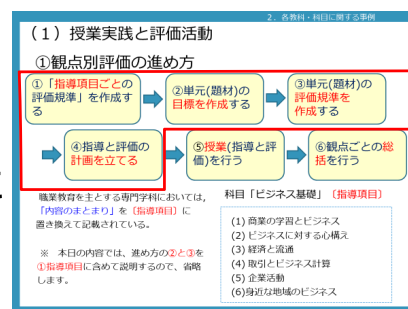
指導項目		評価		
		知識・技術	思考・判断・表現	主体的な態度
学習内容① 学習活動に即した評価規準	評価計画①	B	—	—
	評価計画②	C	B	—
	評価計画③	—	—	B
学習内容② 学習活動に即した評価規準	評価計画④	B	B	—
	評価計画⑤	—	A	—
	評価計画⑥	A	A	—
	評価計画⑦	—	A	A
学習内容③ 学習活動に即した評価規準	評価計画⑧	B	—	B
数値化による総括 評価の平均値と判断基準により総括	A (3点)	3点×1個=3点	3点×3個=9点	3点×1個=3点
	B (2点)	2点×3個=6点	2点×2個=4点	2点×2個=4点
	C (1点)	1点×1個=1点	1点×0個=0点	1点×0個=0点
	合計	10点	13点	7点
判断基準 C B A [1.5 ≤ 平均値 ≤ 2.5]	平均値	10点 ÷ 5個 = 2.0	13点 ÷ 5個 = 2.6	7点 ÷ 3個 = 2.3
	総括評価	B	A	B

## 3 協議課題の提示

## 協議課題：

学習評価の進め方の①～④に沿った  
「指導計画・評価計画」の作成  
(1指導項目分)

## 3. 協議課題の提示



※本動画スライド6を参照

## 【課題】

科目「ビジネス基礎」の〔指導項目〕(5)企業活動

※設定時間数(回数)は、学校の実態に合わせる

## 【留意点】

- \* 教科内で協働して取り組む。
- \* 次年度に実践できる内容とする。
- \* 提出様式を参照し作成する。

## 第2章 高校

# 【職業教育を主とする専門学科】

### — 商業科 —

令和3年度高等学校教育課程研修会  
オンデマンド研修動画